

A stylized world map composed of small white dots on a blue background, with a white curved line at the bottom.

さらなる飛躍へ

auカブコム証券 共催

にっぽん さんそ
日本酸素ホールディングス株式会社
オンライン会社説明会

(証券コード：4091)

2020年11月20日



目次

- **会社概要**
- **業績**
- **成長戦略**
 - 産業ガス業界を取り巻く環境変化
 - 長期経営ビジョン
 - 中期経営計画 Ortus Stage 2
 - 事業戦略
 - Total Electronics戦略
 - メディカル事業
 - サーモス事業
- **環境負荷低減への取り組み**
- **株主還元方針**
- **統合報告書2020のご紹介**

会社概要



Ortus Stage 2

会社概要

商号	にっぽんさんそ 日本酸素ホールディングス株式会社
創業年月日	1910年（明治43年）10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
代表者	代表取締役社長 CEO 市原 裕史郎
連結従業員数 （2020.3.31）	19,719名 （国内 6,550名 海外 13,169名）
資本金	373億4,400万円
売上収益 （2020年3月期）	8,502億円
コア営業利益※ （2020年3月期）	903億円



※コア営業利益とは、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出した数値を示します。

なお、非経常項目とは、構造改革費用（事業縮小・撤退、特別退職金）、災害や重大な事故による損失、その他（遊休資産の処理など）が該当します。

産業ガスマーケット シェア順位 (当社推定)

グローバル

産業ガス市場規模(2016年) : 856億米ドル

首位



Linde plc
(Linde + Praxair)

シェア
35~%

Linde AGとPraxairの合併により新会社が誕生

2位



Air Liquide

シェア
25~%

3位



Air Products

シェア
9~%

4位



Nippon Sanso
Holdings

シェア
7~%

5位



Messer

シェア
2%

⋮

国内

産業ガス販売市場規模 (日本・2018年3月期) 5,700億円

首位



大陽日酸 (国内事業会社)

シェア
40%

2位



エア・ウォーター

シェア
22%

3位



日本エア・リキード

シェア
15%

4位



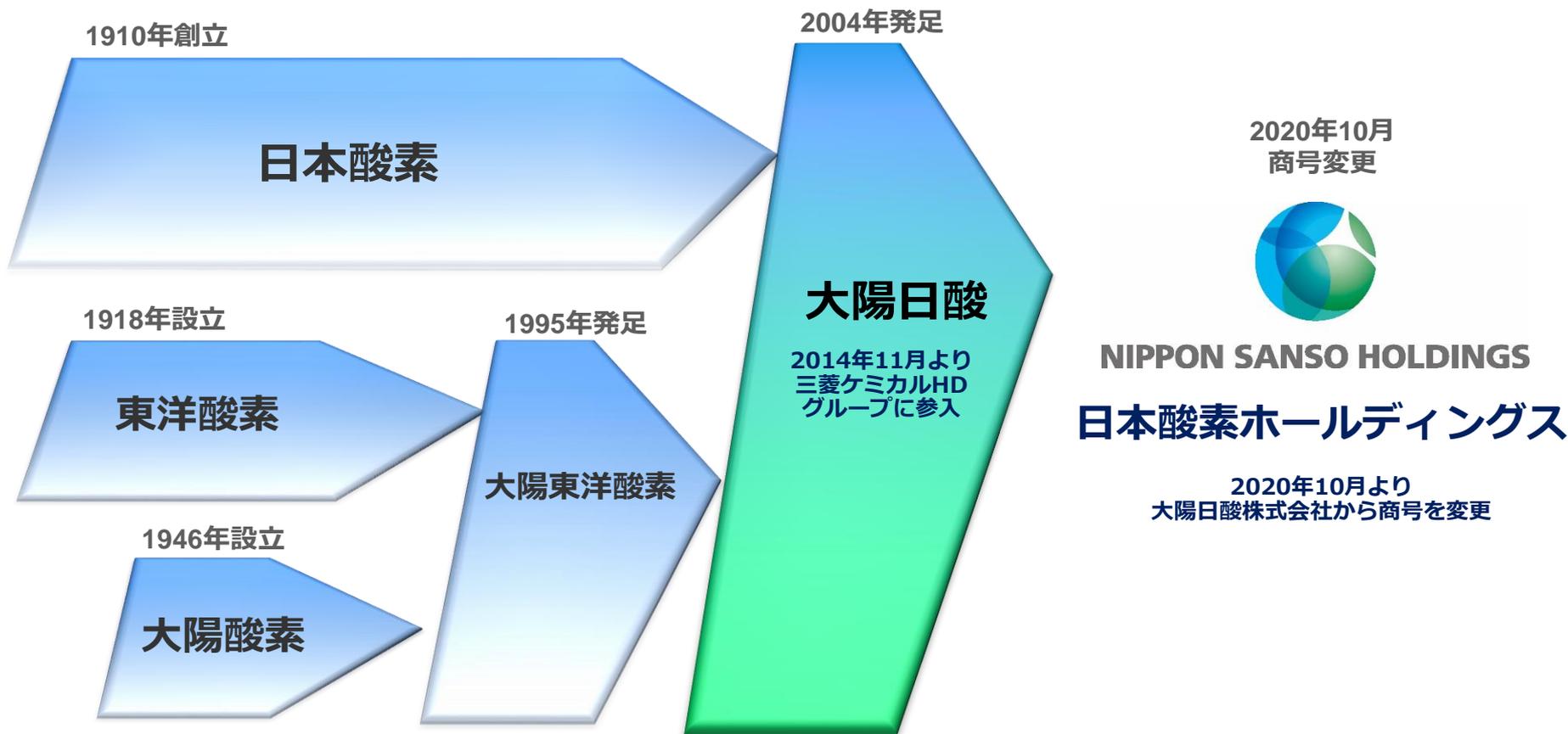
岩谷産業

シェア
14%

⋮

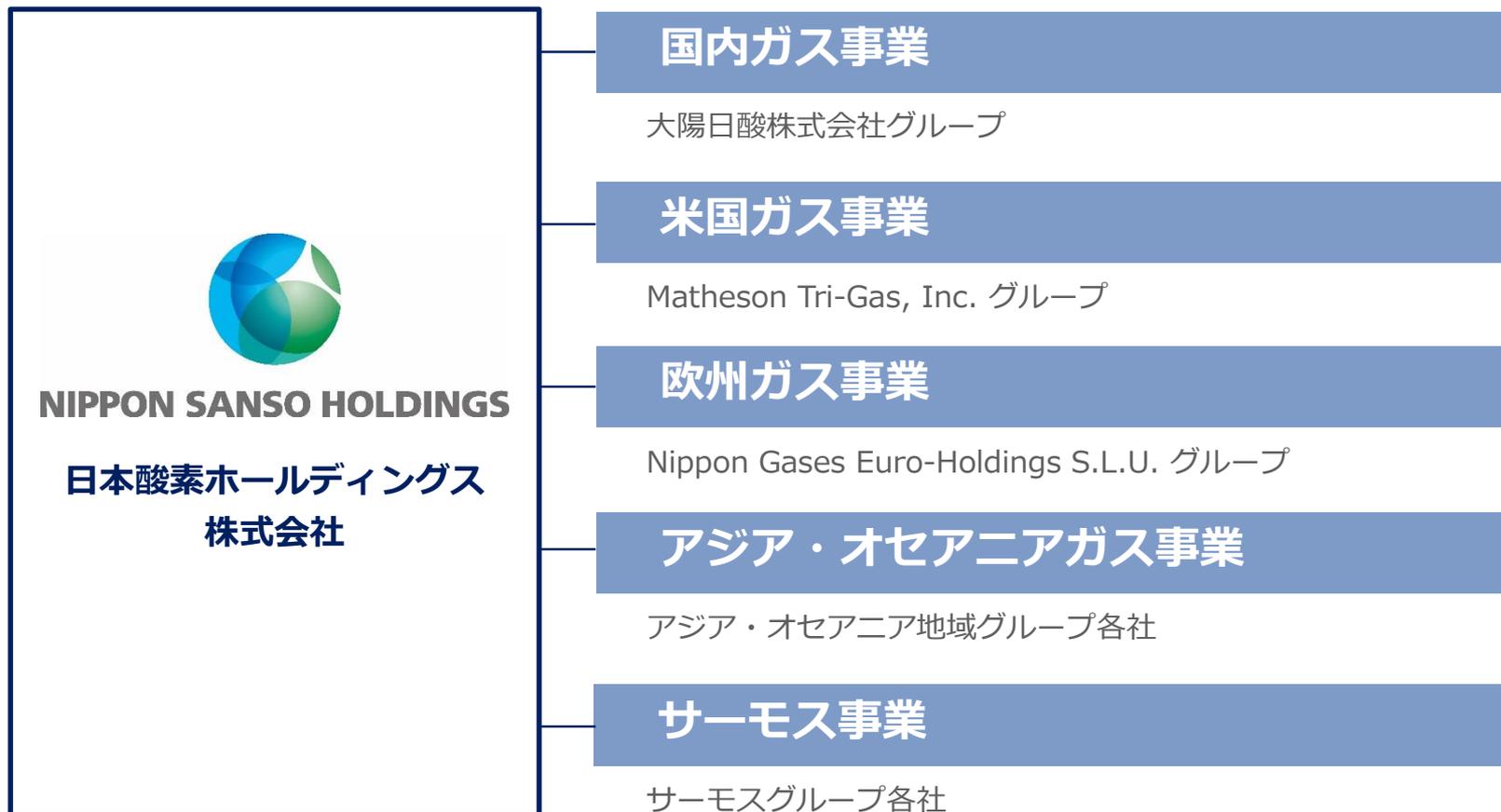
会社概要 - 沿革

日本酸素と大陽東洋酸素が2004年10月に合併し、大陽日酸株式会社になり、2020年10月1日付で商号を日本酸素ホールディングス（株）に変更しました。



酸素の製造・販売を礎業とする産業ガスメーカー3社が合併し、
2010年代から海外事業の拡大が進み、持株会社体制に

会社概要 – 事業運営体制



グローバルガスメジャーとして競争力のあるグループ運営体制を構築

事業概要 — 酸素・窒素の代表的な用途

製鉄所の転炉工程（酸素で不純物を除去）



ガス切断（高速噴出酸素バーナー）



液体窒素での冷凍加工

事業概要 – 代表的な産業ガス①

酸素 (O₂)

酸素富化 (支燃性)



医療ガス



— 主な特徴 —

化学的にはきわめて活性 (化学反応を起こしやすい)が高く、他のものを酸化する力 (酸化性・支燃性) が強く、多くの元素と化合します。

— 主な用途 —

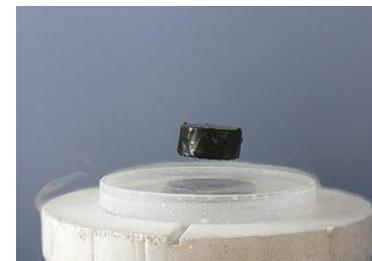
- ・鉄鋼業での高炉の吹込み
- ・鋼材の溶接や切断
- ・化学分野での酸化反応工程
- ・医療分野での酸素吸入

窒素 (N₂)

保安用 (不燃性)



低温冷媒



— 主な特徴 —

常温や低温では化学的に不活性 (化学反応を起こしにくい)で、他の物と化合しにくい性質を持っています。

— 主な用途 —

- ・石油化学での保安用 (防爆用)
- ・半導体製造や化学品の酸化防止
- ・食品の封入ガス
- ・冷凍食品での冷媒

事業概要 – 代表的な産業ガス②

アルゴン (Ar)

溶接用ガス



金属精錬 (不活性)



— 主な特徴 —

その名前はギリシア語の怠け者に由来しています。化学的に極めて不活性な性質を持っています。

— 主な用途 —

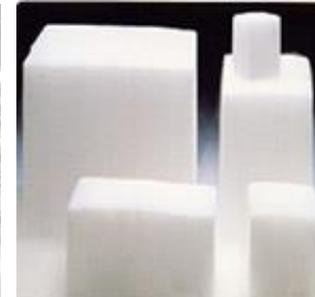
- ・ 金属溶接での雰囲気ガス
- ・ 金属精錬での雰囲気ガス
- ・ 鉄鋼製造での雰囲気ガス

炭酸ガス (CO₂)

植物工場 (光合成の促成)



保冷剤



— 主な特徴 —

水によく溶けて炭酸水になり、他の物質と反応しますが、乾いた状態では他の物質とほぼ反応しない不活性なガスです。

— 主な用途 —

- ・ 炭酸飲料 (ビール等) の発泡用
- ・ ドライアイスの原料
- ・ 温室での野菜類の促成栽培
- ・ 金属溶接での雰囲気ガス

事業概要 – 代表的な産業ガス③

水素 (H₂)

ロケット推進剤



水素ステーション



— 主な特徴 —

可燃性のガスで、地球上の元素の中では最も軽い気体です。また、熱伝導が非常に大きく、粘性が小さく、急速に拡散します。

— 主な用途 —

- ・ ロケットの推進剤
- ・ 自動車のクリーンエネルギー
- ・ 石油精製時の水素化脱硫用
- ・ 金属加工時の熱処理

ヘリウム (He)

MRI (極低温冷媒)



風船



— 主な特徴 —

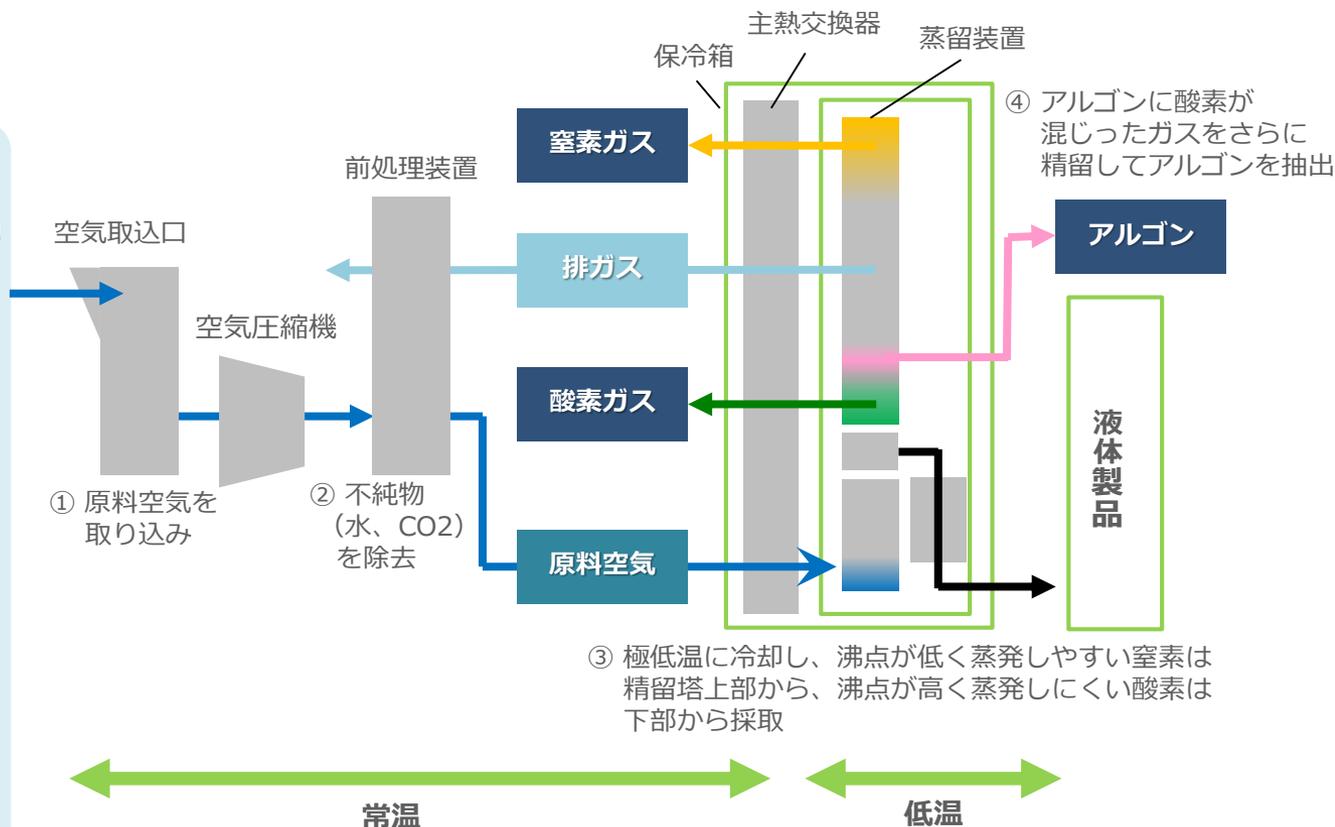
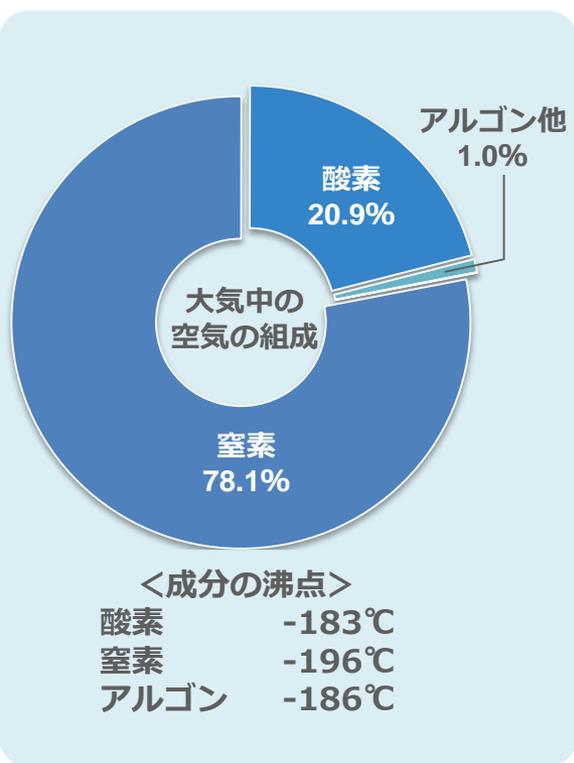
化学的には不活性で通常の状態では他の元素や化合物と結合せず、**沸点が -268.9℃で液体にすると最も低温なガス**です。

— 主な用途 —

- ・ MRI (磁気共鳴画像) の冷却用
- ・ 光ファイバー焼結用の雰囲気ガス
- ・ 呼吸用混合ガス (ダイビングガス)
- ・ 飛行船、風船

事業概要 - 酸素・窒素・アルゴンの製造工程

深冷空気分離装置の仕組み



原料が大気ですので、資源枯渇の心配はありません

事業概要 – 産業ガスの貢献分野

鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等の、あらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、日本の産業界の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。



供給先の主な業界

1910年～	1950年～	1960年～	1970年～	1980年～
鉄道、陸海空軍	製鉄・造船	石油化学	半導体・自動車	医療・食品

供給する主なガス

1910年～	1950年～	1960年～	1970年～	1980年～
酸素 アセチレン	酸素	窒素	窒素 アルゴン	酸素 窒素

代表的な用途

<p>● 金属切断・溶接</p> 	<p>● 高炉への吹込み</p> 	<p>● 保安用</p> 	<p>● 酸化防止</p> 	<p>● 病院・封入</p> 
--	--	---	---	---

事業概要 - 事業別売上割合

産業ガス

- 酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガス、ヘリウム、水素、アセチレン
- ハードグッズ（溶接材料、溶断機器）



エレクトロニクス関連

- 液晶・半導体製造工程で使用する材料ガス



プラント・エンジニアリング

- 空気から酸素・窒素・アルゴンを分離する装置



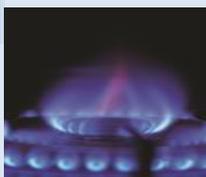
メディカル関連

- 医療用ガス（病院向けのガス）
- 凍結保存容器（セルバンクシステム）
- 医療機器（在宅酸素療法）



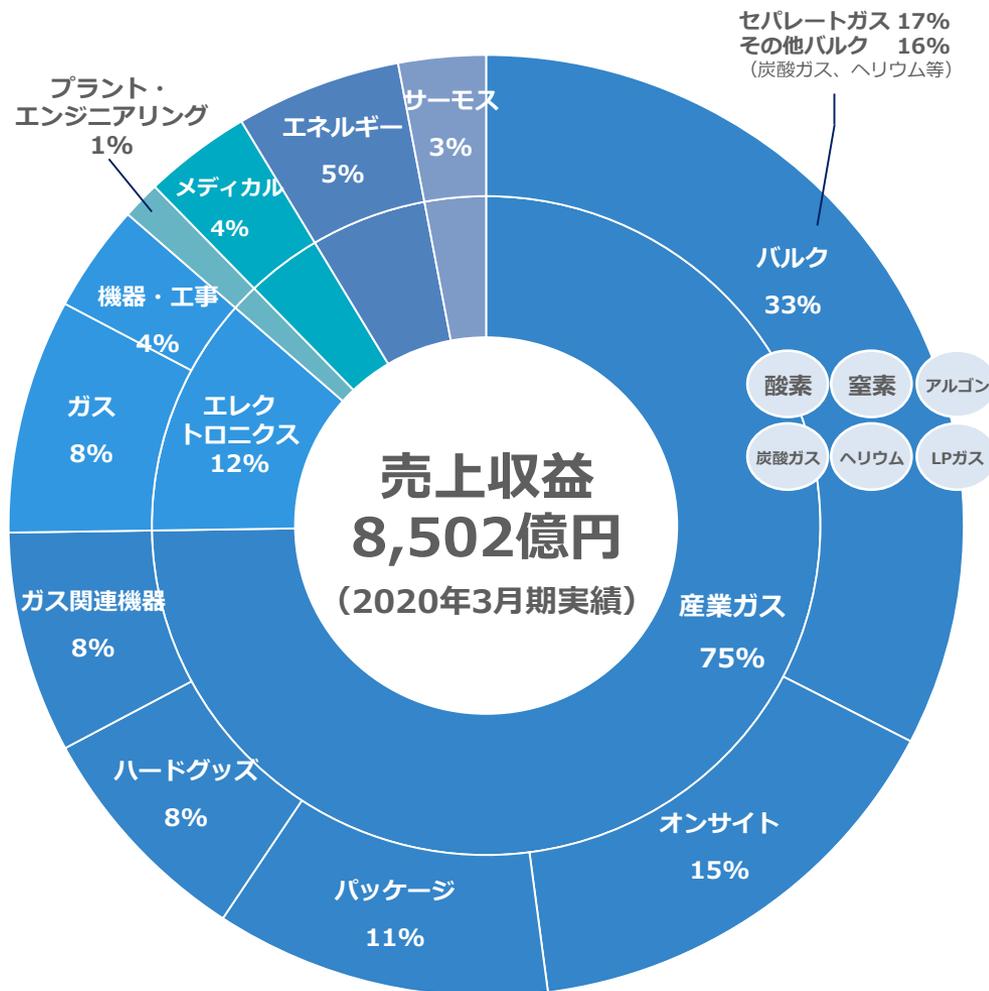
エネルギー

- LPガス（工業用、民生用）
- LPガス供給設備



サーモス

- サーモス（ステンレス製魔法瓶、調理用品）



事業概要 – 産業ガス供給体制

産業ガス

空気分離装置

空気



酸素 窒素 アルゴン

製造・精製プラント

化学工場の副生ガス
天然ガス



炭酸ガス ヘリウム 水素



パイプラインで供給
(オンサイト)

酸素 窒素

オンサイトガス
ユーザー
(使用量：大)



液化ガスローリー
(バルク)

酸素 窒素 アルゴン 炭酸ガス ヘリウム

バルクガス
ユーザー
(使用量：中)

極低温の液化ガスを運ぶので、
タンクは真空断熱構造

シリンダーによる供給
(パッケージガス)



酸素 窒素 アルゴン アセチレン 溶断ガス

パッケージガス
ユーザー
(使用量：小)

充填所

ハードグッズ

各種ガスの供給に合わせて**ハードグッズ**を販売

事業概要 – グローバルネットワーク

2018年12月に米国Praxair, Inc.社の欧州事業の取得し、産業ガス事業としては欧州へ初参入



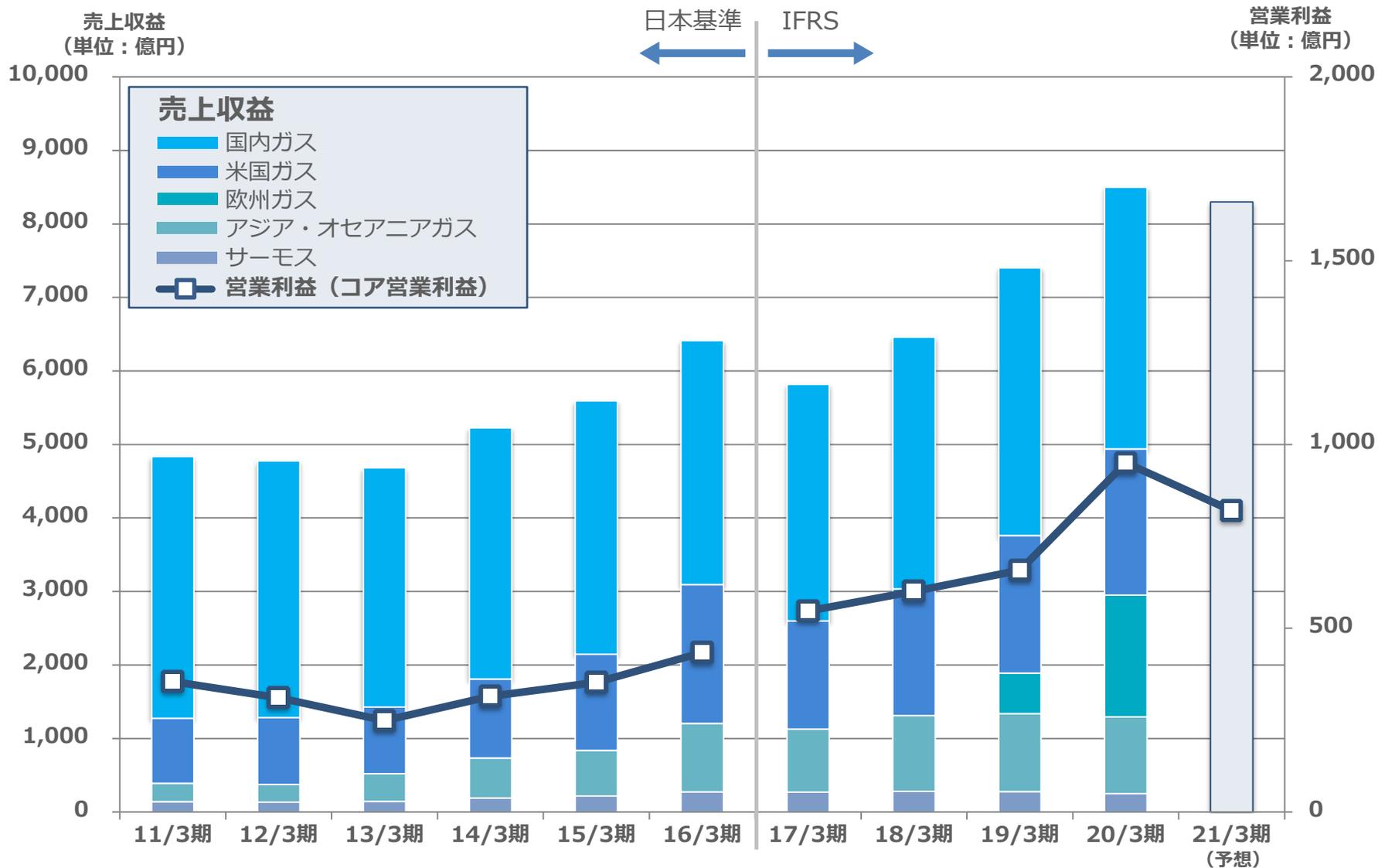
世界29ヶ所の国・地域に進出し、グローバルで100カ所以上のガス生産プラントを保有

業績

Ortus Stage 2

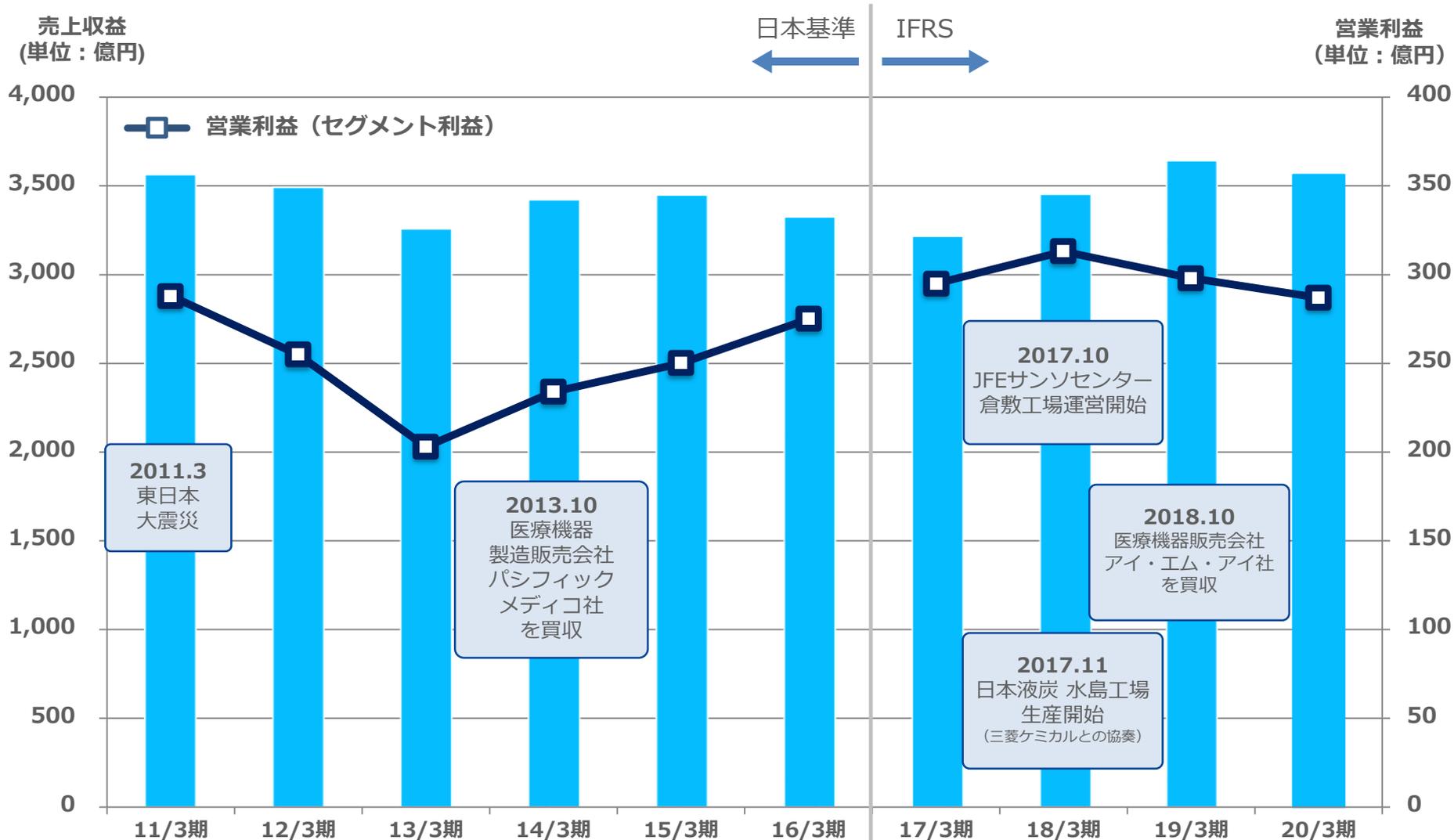


業績推移



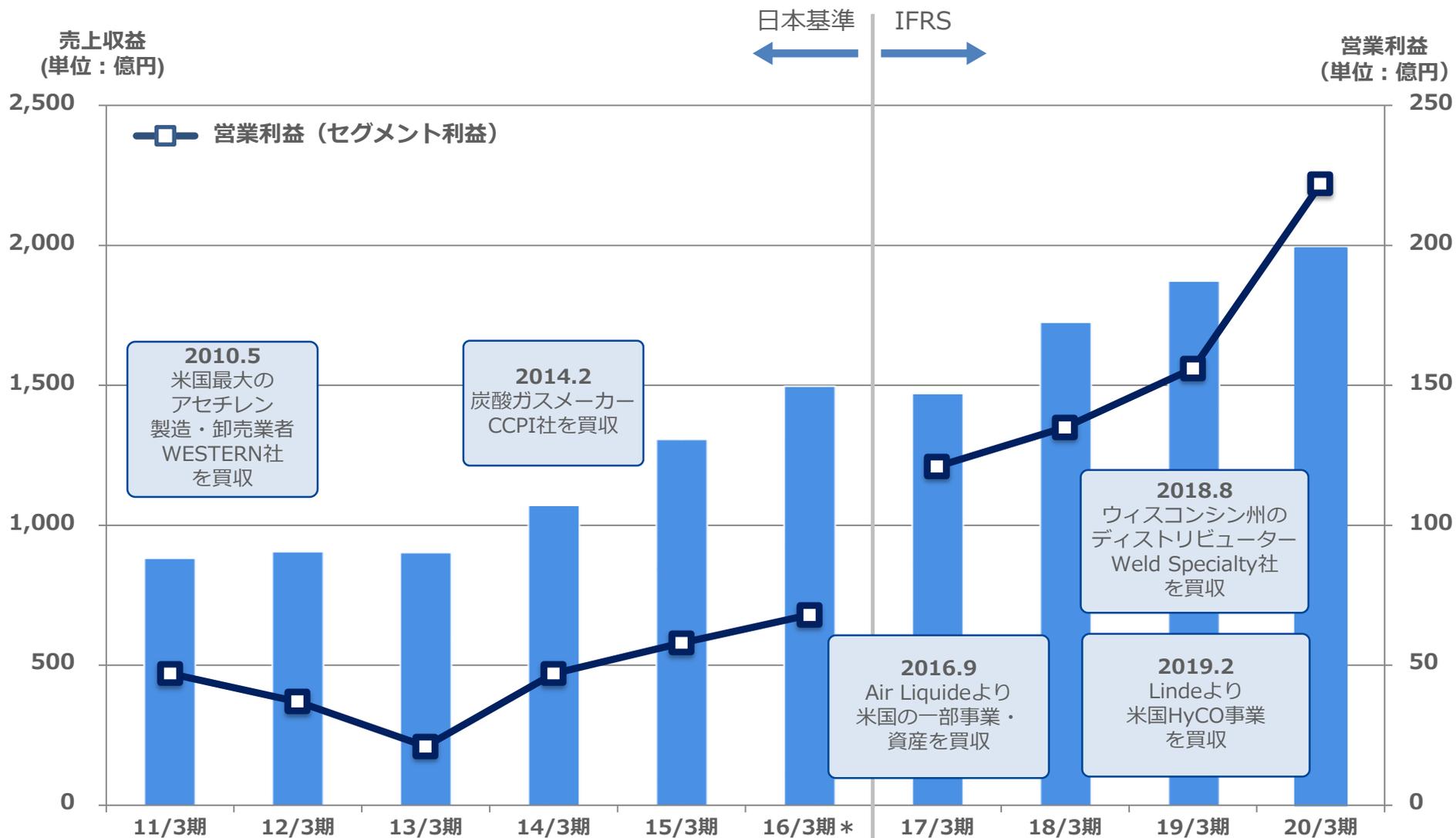
- ・ 2021年3月期予想は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業績への影響を考慮し、セグメント別では非開示
- ・ 2016年3月期は子会社の決算期変更影響あり（売上収益+513億円、営業利益+29億円）
- ・ IFRSの利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出した「コア営業利益」にて表示

国内ガス：業績推移



*2019年3月期よりサーモス他事業に含まれていた「他事業（不動産事業等）」は国内ガス事業セグメントに移管

米国ガス：業績推移

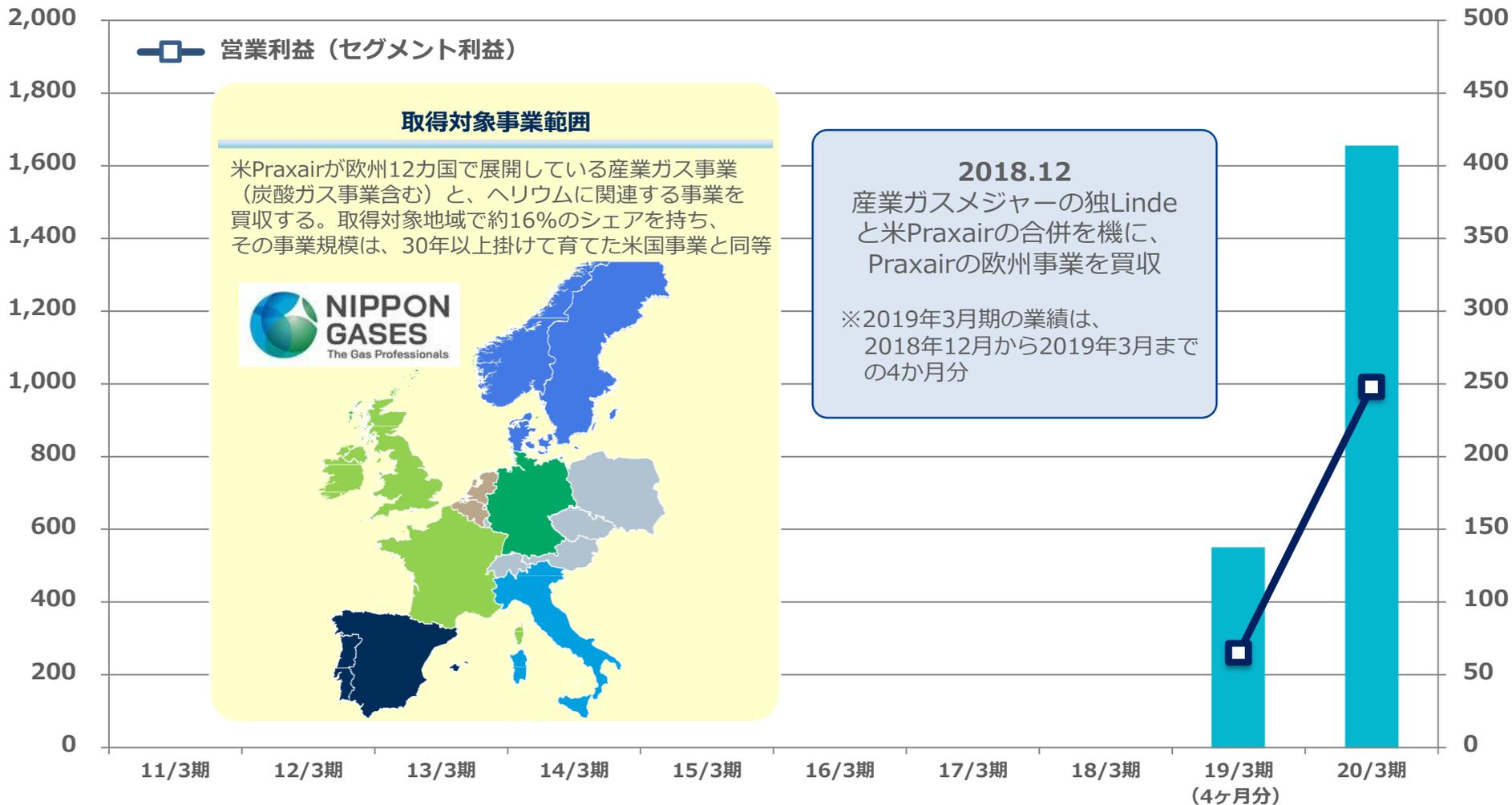


* 2016年3月期は子会社での決算期変更影響を除いて算出

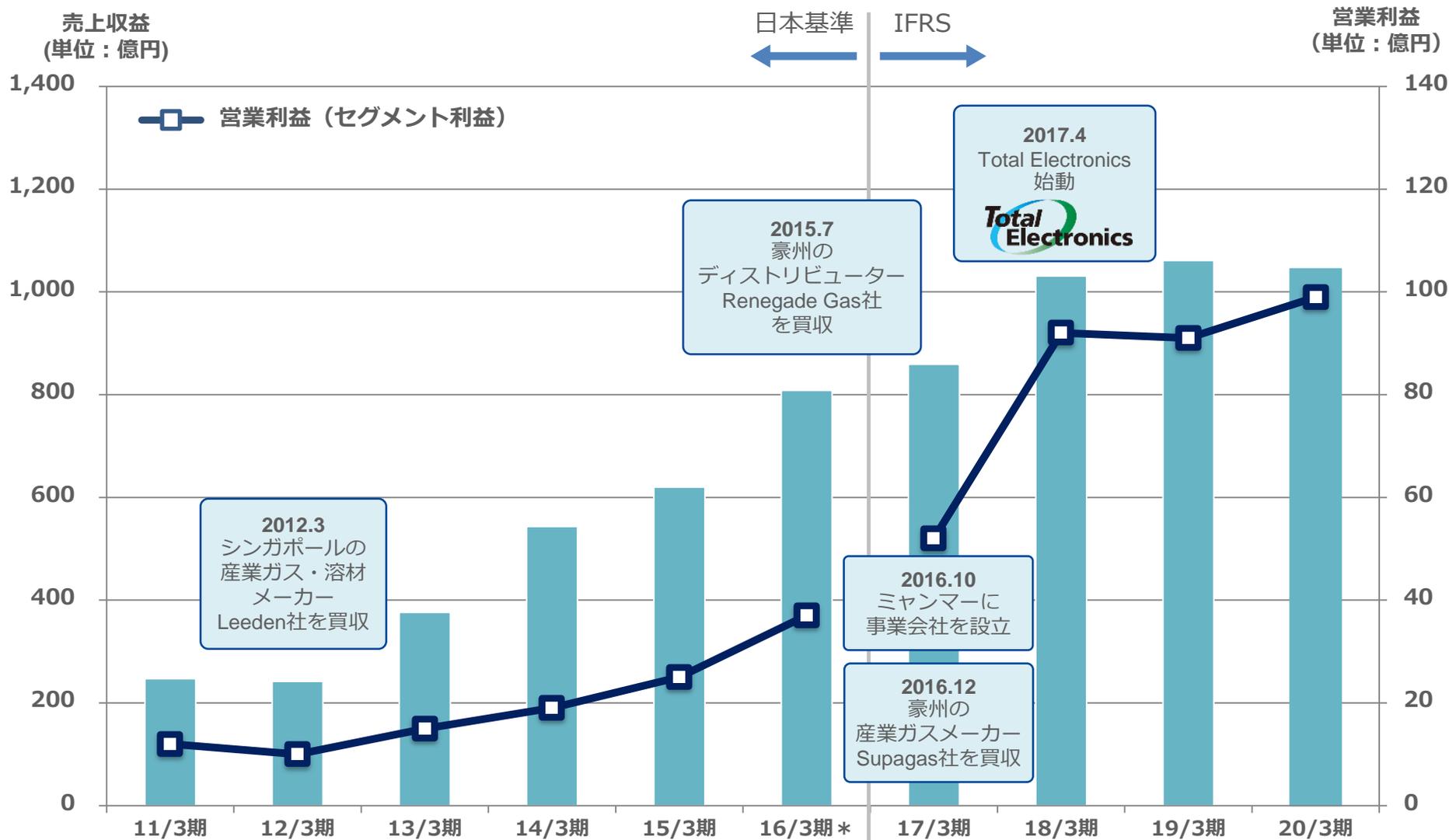
欧州ガス：業績推移

売上収益
(単位：億円)

営業利益
(単位：億円)

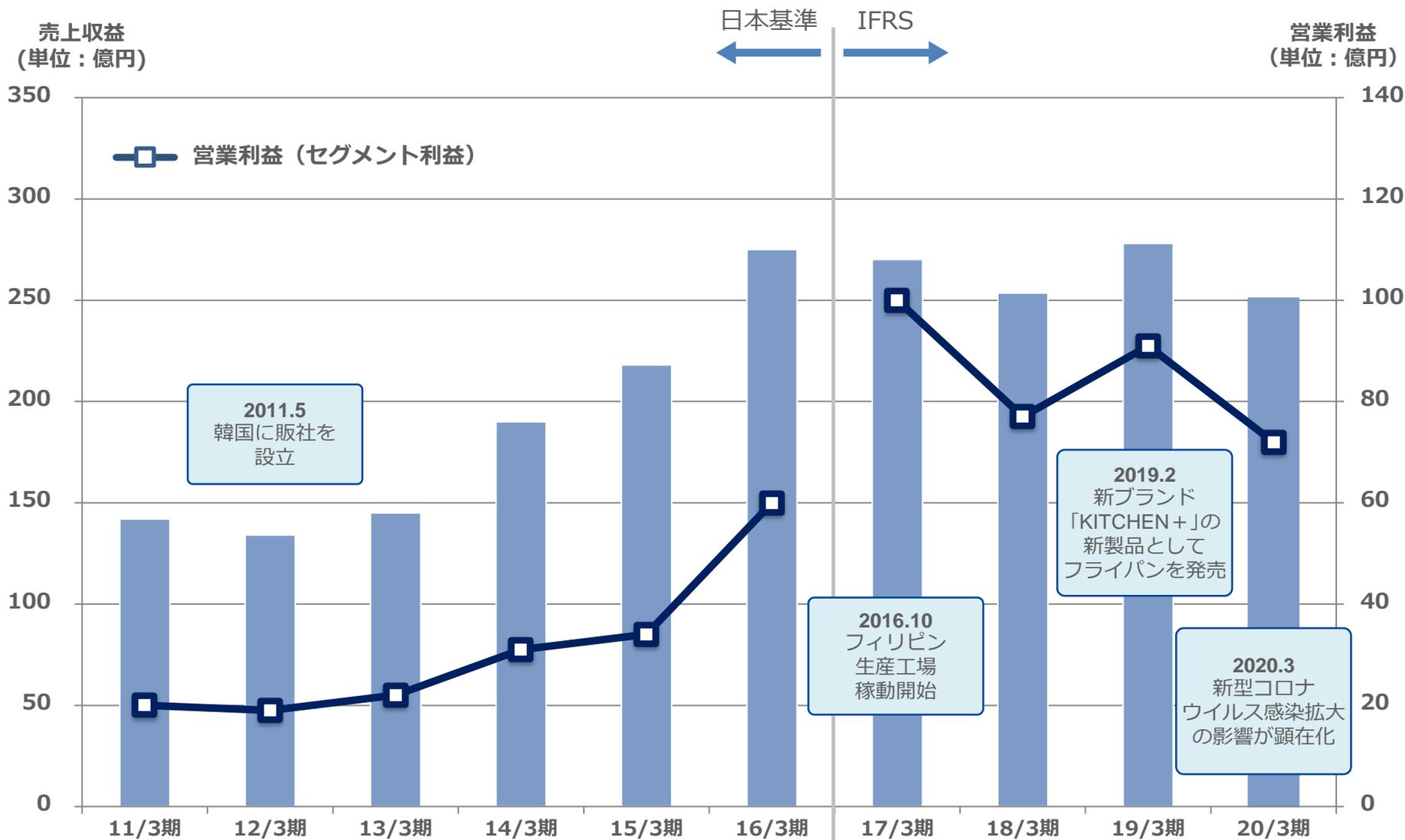


アジア・オセアニアガス：業績推移



* 2016年3月期は子会社での決算期変更影響を除いて算出

サーモス：売上推移



*2019年3月期よりサーモス他事業に含まれていた「他事業（不動産事業等）」は国内ガス事業セグメントに移管

2Q業績概要

(単位：億円)

	20/3月期 2Q実績 利益率	21/3月期 2Q実績 利益率	前年同期比 増減率	21/3月期 通期予想 (5/12発表) 利益率
売上収益	4,228	3,845	-383 -9.1%	8,300
コア営業利益	454 10.8%	367 9.6%	-87 -19.2%	820 9.9%
非経常損益	12	-0	-12	-
営業利益	467 11.1%	366 9.5%	-101 -21.6%	820 9.9%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	277 6.6%	210 5.5%	-67 -24.3%	440 5.3%

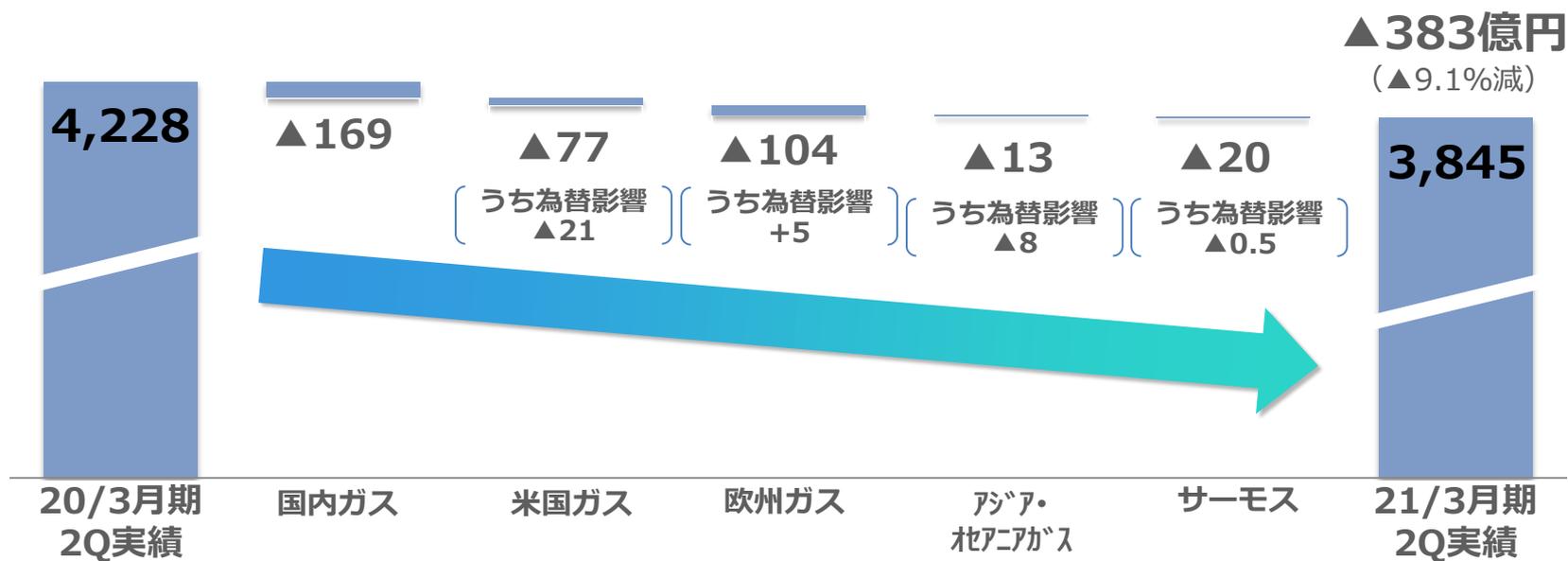
● 適用為替レート（期中平均レート）

単位：円	USD（米ドル）	EUR（ユーロ）	AUD（豪ドル）
2020年3月期2Q	108.67	120.91	74.75
2021年3月期2Q	106.32	121.66	73.91

- 2021年3月期2Q公表値は、新型コロナウイルス感染症による業績影響を合理的に算出することが困難であったため、2020年3月期通期決算開示及び2021年3月期1Q決算開示においては発表しておりません。

2Q業績概要：売上収益増減要因

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による各地域の景況悪化で、欧米を中心に大幅な減収となりましたが、1Qから2Qにかけては、月を追うごとに、緩やかな持ち直しの動きとなりました。

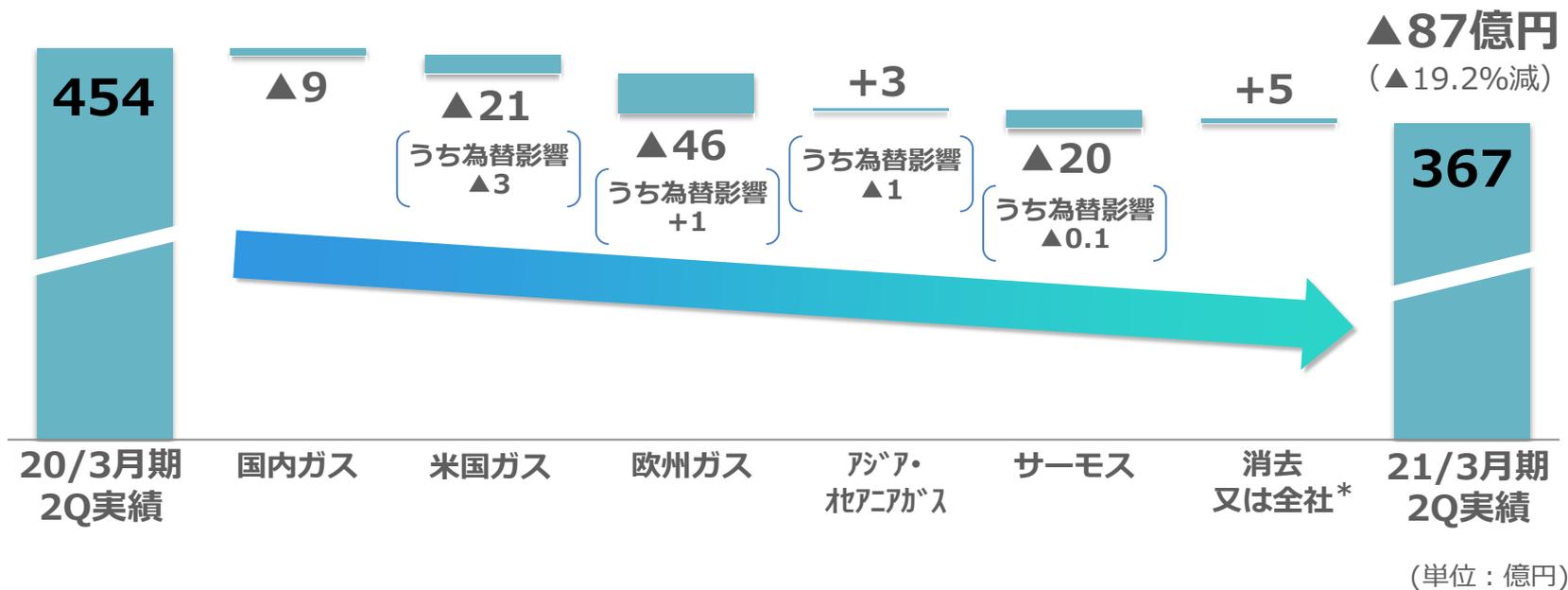


(単位：億円)

	1,571	912	748	502	110	21/3月期 2Q実績
20/3月期 2Q実績	1,740	989	852	515	130	

2Q業績概要：コア営業利益増減要因

- 産業ガス事業は各地域の生産活動停滞で減収による減益でしたが、エレクトロニクス事業は国内及び東アジアを中心に半導体向けの電子材料ガスや関連機器・工事は堅調に推移しました。



	国内ガス	米国ガス	欧州ガス	アジア・北アガス	サーモス	消去又は全社*	21/3月期 2Q実績
20/3月期 2Q実績	114	96	86	56	21	-8	
20/3月期 2Q実績	123	117	132	53	41	-13	

* 消去又は全社では、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

通期業績予想

(単位：億円)

	20/3月期 通期実績 利益率	21/3月期 通期予想 利益率	前期比 増減率
売上収益	8,502	8,300	-202 -2.4%
コア営業利益	903 10.6%	820 9.9%	-83 -9.2%
非経常損益	35	-	-35
営業利益	939 11.0%	820 9.9%	-119 -12.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	533 6.3%	440 5.3%	-93 -17.5%

- 2021年3月期 想定為替レート：(USD→円) 108円/USドル、(EUR→円) 120円/ユーロ
- 2020年3月期では、資産効率改善の一環として保有資産の売却し、非経常損益項目で計上しました。

成長戦略

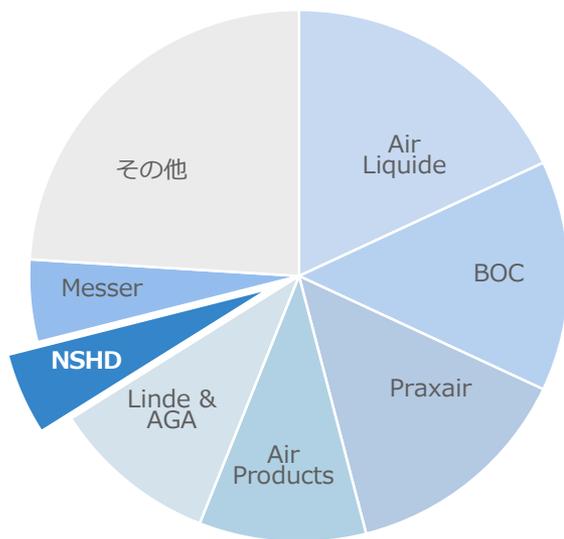
A graphic element consisting of a circular globe with a blue and green color scheme, surrounded by a thick, multi-colored ring. The globe shows the Americas. The ring is divided into segments of blue, green, and teal. A dark teal rectangular box with white text is positioned at the top right of the ring.

Ortus Stage 2

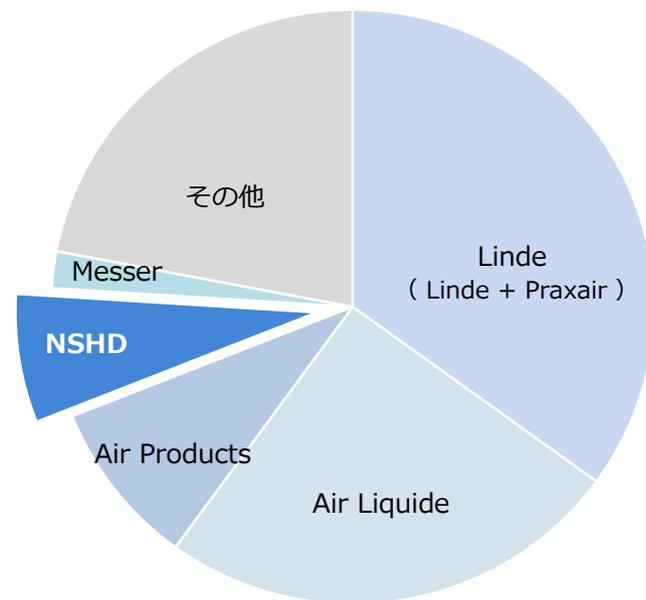
産業ガス業界を取り巻く環境変化

海外市場の成長と寡占化に対応するためのスピード感を持った戦略実行が不可欠です

1990年のシェア



足元のシェア
(当社推定)

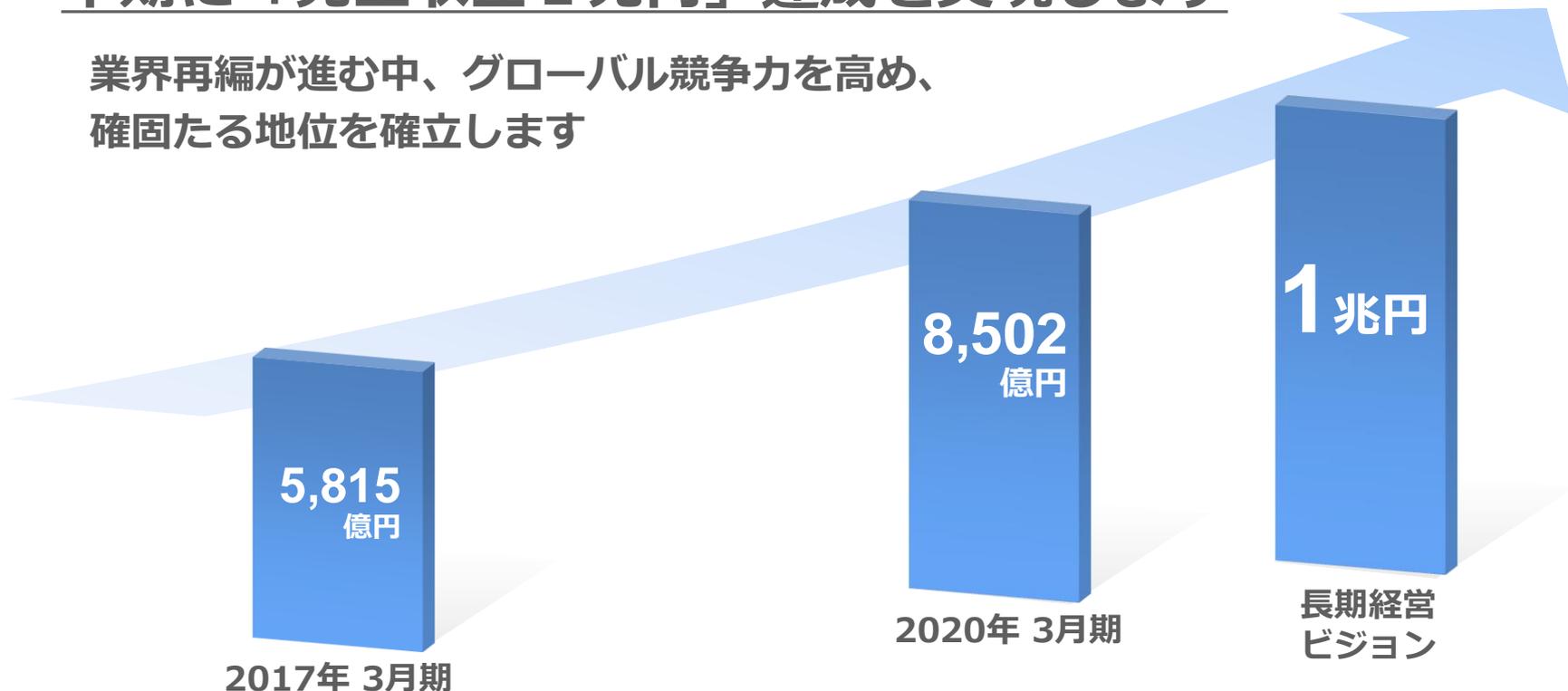


出所：ガスジオラマに掲載されている産業ガスマーケットシェアをもとにして当社で推定
(1990年のNSHD[日本酸素ホールディングス]のシェアは、日本酸素・大陽酸素・東洋酸素の単純合算)

長期経営ビジョン

早期に「売上収益 1 兆円」達成を実現します

業界再編が進む中、グローバル競争力を高め、
確固たる地位を確立します



中期経営計画 Ortus Stage 2 – 基本方針



中期経営計画 Ortus Stage 2 – 重点戦略

構造改革	イノベーション	グローバル化	M&A
 連携強化によるグループ力の最大化	外部リソース、IoT活用によるイノベーション推進	ガバナンス強化 成長戦略 	M&Aを通じて当社の持続的成長と成長加速を図る

事業戦略 – M&A 戦略

事業エリアの拡大と事業密度の向上

- 市場優位性を確保
- 効率経営の追求

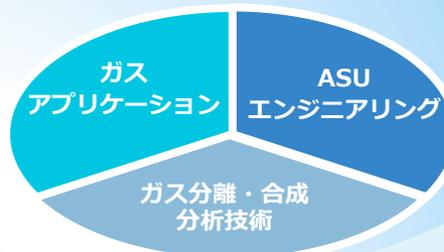


新たな商材・技術・サプライチェーンの獲得

M&A

[オープン・イノベーション含む]

- クリーンテクノロジー
- エレクトロニクス
- ガステクノロジー



メディカル事業の拡大

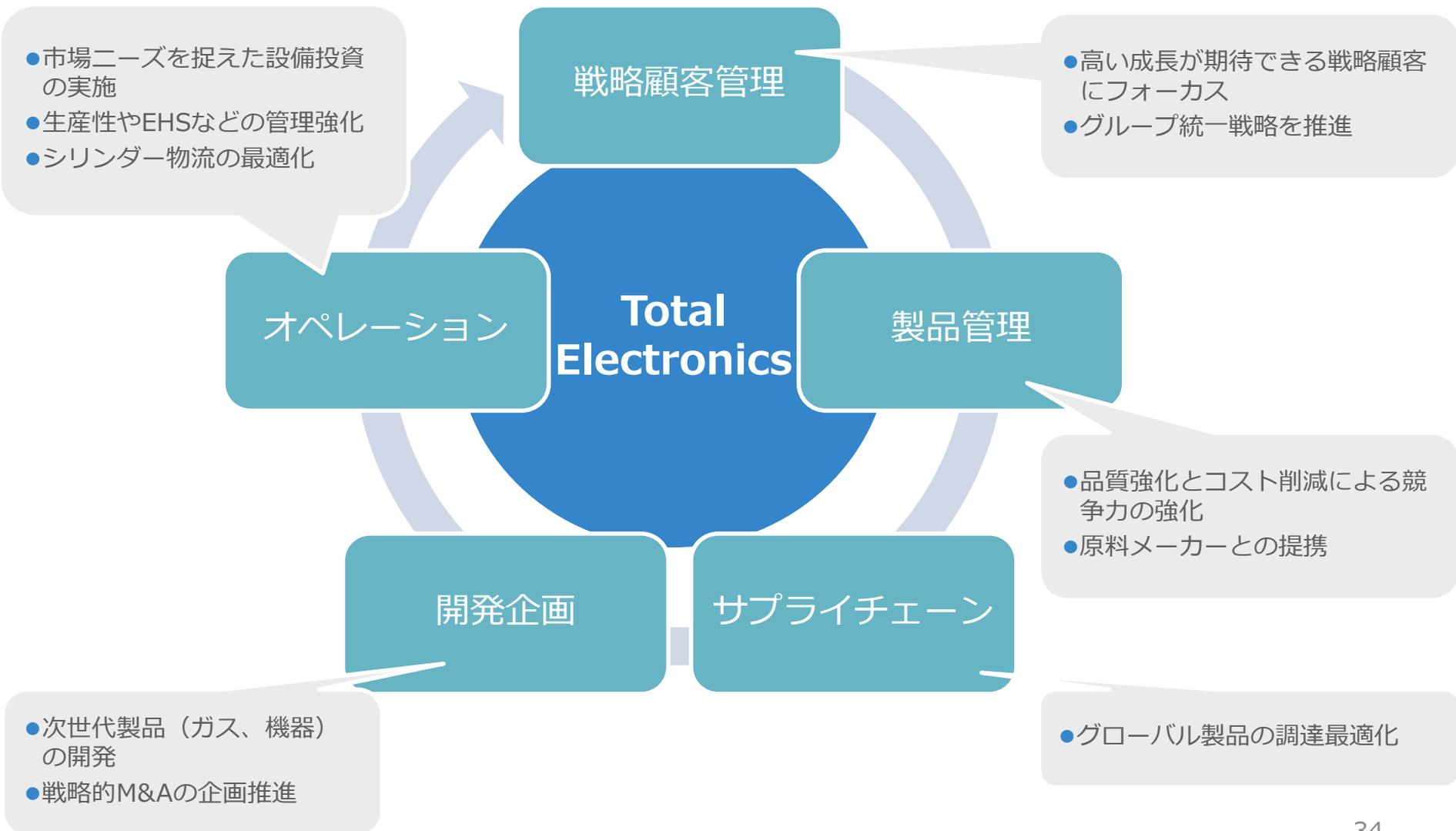
既存事業領域

M&A

- 医療ガス
- 安定同位体
- バイオ
- 医療機器
- 在宅医療
- 病院設備

※ ASUとは、Air Separation Unit（空気分離装置）の略称です

事業戦略 – Total Electronics戦略



事業戦略 - メディカル事業

医療ガスを中心に、病院設備、バイオ（細胞保存等）関連、安定同位体、在宅医療、医療機器（人工呼吸器等）といった事業領域で展開しています

生体資料搬送容器



大型液体窒素凍結保存容器



医療ガス

病院で患者さまが吸入する酸素ガス

病院設備

病院に設置された医療用ガス供給設備

バイオ関連

液体窒素を冷媒とした凍結保存容器

安定同位体

がんの診断薬原料となる特殊な酸素

在宅医療

在宅酸素療法で使われる携行酸素吸入器

医療機器

医療機関で使われる高品質な人工呼吸器など

酸素濃縮装置

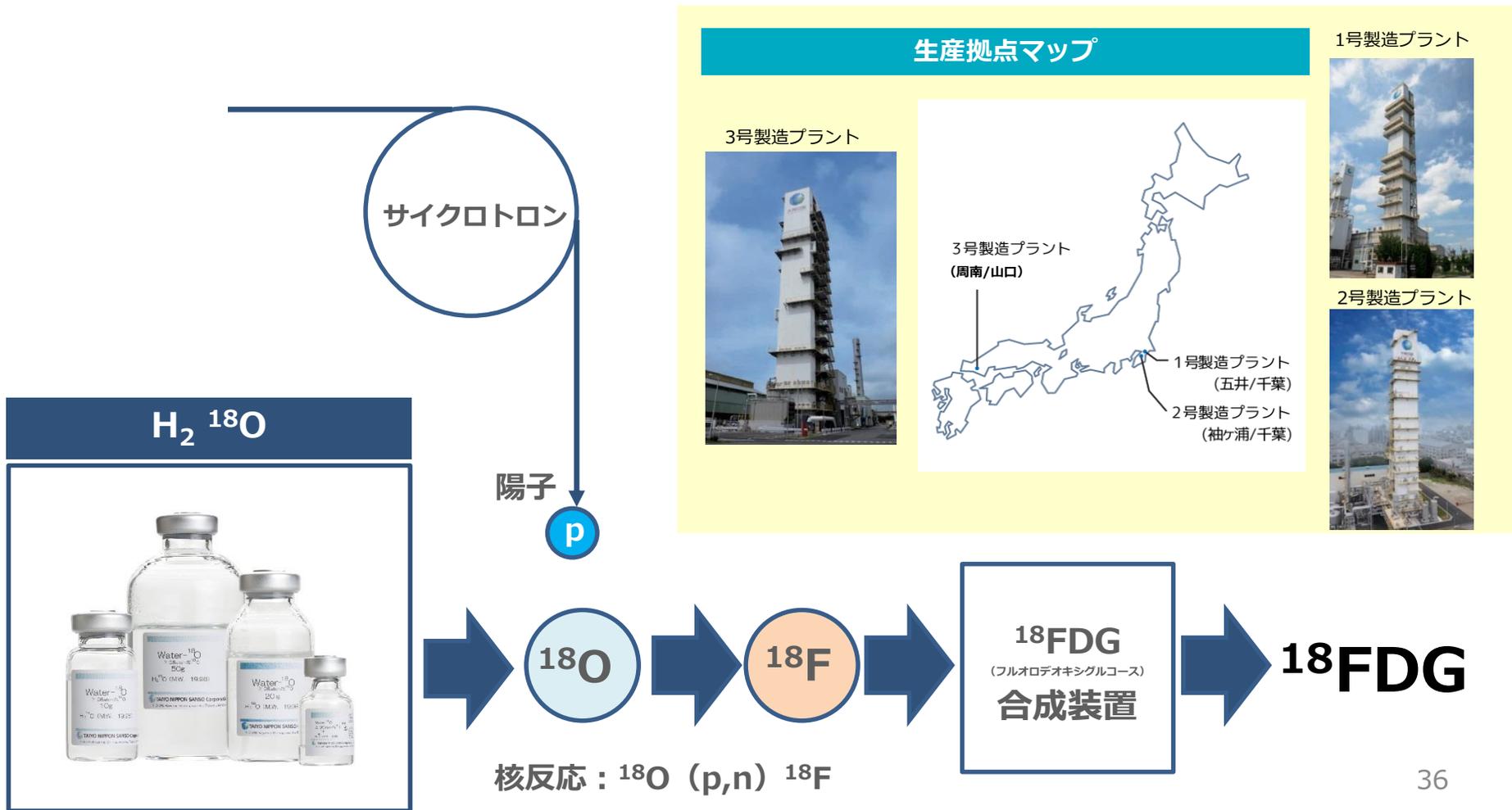


携帯用酸素ボンベ



PET診断薬原料：安定同位体「Water-¹⁸O」

ポジトロン断層撮影（PET）の診断薬原料である「Water-¹⁸O」の世界最大のメーカーで、2004年の発売以来、35カ国以上に供給し、世界中のがん診療に貢献しています





企業理念

人と社会に快適で 環境にもやさしいライフスタイルを提案します

豊かで快適な生活を追求することは、時として環境を犠牲にします。私たちは「利便性」と「環境保護」を両立させることを使命と考え、保有する断熱技術をはじめとした様々な技術と創造力で省エネルギーに貢献するとともに、快適なライフスタイルを実現する新しい価値を提供してゆきます。

真空断熱構造で
おいしい温度をキープ



ステンレス魔法びん構造で
高い保温・保冷力

グローバルネットワーク



各地域拠点を通じて世界120カ国以上に製品を出荷

★付 (サーモス株式会社(日本)、韓国販社、マレーシア・フィリピン工場) は当社連結対象

エリア別戦略

【グローバル】

ブランド力の強化

- 積極的なPR活動を通じたブランドイメージの向上
- ブランド力を活かした販売戦略の立案・実行

エリアマーケティングの実践

- 各地域のライフスタイルに合わせたマーケティングを実践
- 市場変化に対応した営業活動

生産能力の向上

- フィリピン工場の安定稼働
- マレーシア、中国、フィリピンで安定的な生産体制を構築



フィリピン工場（2017年稼働開始）

【日本国内】

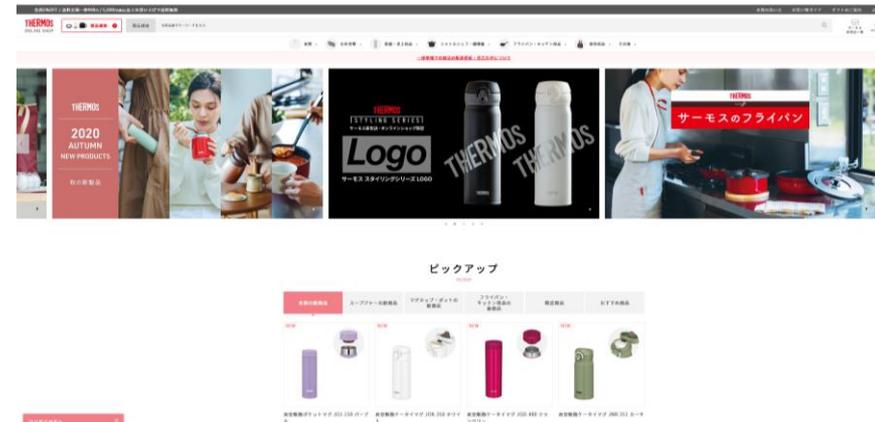
商品領域の拡大

- ブランド力を活かした新規カテゴリへの参入



販売チャネルの拡大

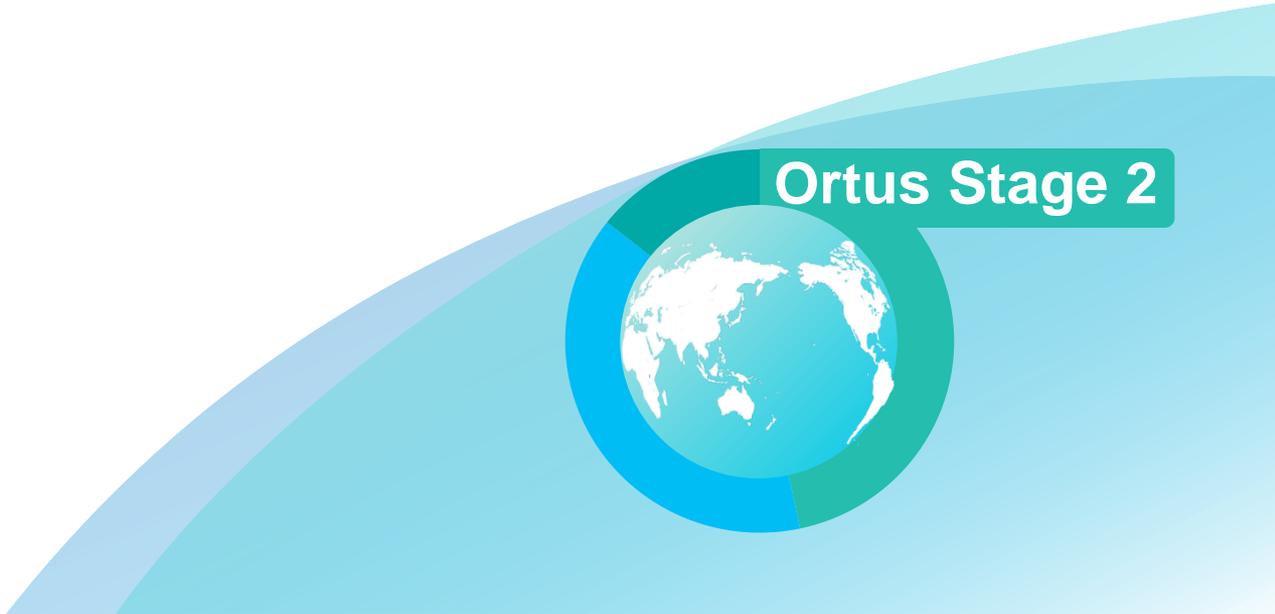
- 量販店などのリアル店舗に加え、展開面の拡大
→ ネット通販、直営店、自社ECサイト 等



サーモスオンラインショップ
<https://www.shophermos.jp/>

環境負荷低減への取組み

Ortus Stage 2



持続可能な地球環境の保全に貢献するために

地球温暖化防止・大気汚染対策として、クリーンな水素エネルギー社会の実現に向けて取り組んでいます。

水素ステーション 設置状況



nimohyss 日本移動式水素ステーションサービス
www.nimohyss.com

CO₂フリーシステム



水素ステーション関連 開発のあゆみ

- | | |
|-----------------|--|
| 1999年 | 35MPa水素ステーションの開発開始 |
| 2002年
～2015年 | 水素・燃料電池実証プロジェクトに参画し、
経済産業省中庭に霞ヶ関水素ステーションを開設 |
| 2005年 | 「愛・地球博」に水素ステーション2箇所設置
(万博終了後、セントレア水素ステーションに移設) |
| 2006年 | 70MPa水素ステーションの開発開始 |
| 2010年 | 水素供給・利用技術研究組合 (HySUT) 参画 |
| 2012年 | パッケージ型水素ステーションの開発開始 |
| 2015年 | 合同会社 日本移動式水素ステーションサービス設立 |
| 2019年～ | 環境省 CO ₂ フリー水素充填・フォークリフト活用
モデルプロジェクト参加 |

水素ステーション設備

- ・ニモヒス水素ステーション 世田谷 / 南六郷
- ・CO₂フリー フォークリフト用水素充填システム

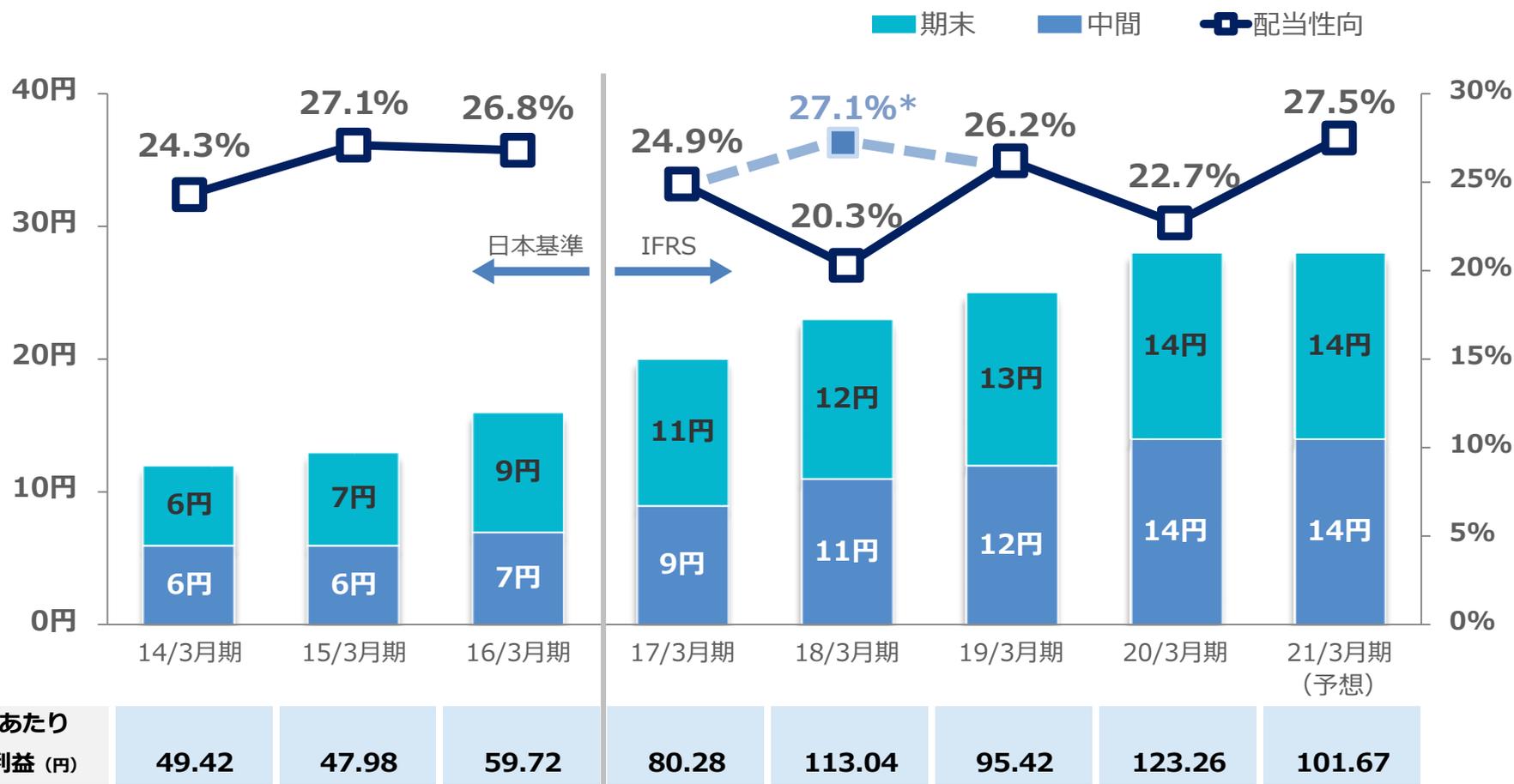
株主還元方針

Ortus Stage 2



株主還元

安定的な配当を維持しつつ、連結業績との連動を考慮した配当政策を実施します



*2018年3月期では、米国での税制改革法における連邦法人税率の引下げにより、法人所得税が大幅に減少しました。この影響を除いた場合、配当性向は「27.1%」となります。

株価推移

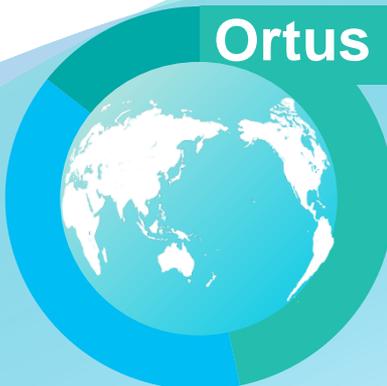
Ortus Stage1以降の株価推移（終値ベース）は以下の通りです。



Ortus Stage1

Ortus Stage2

統合報告書2020のご紹介



Ortus Stage 2

ご紹介

社長メッセージ

日本酸素ホールディングスグループは、
革新的なガスソリューションを通じて、
豊かで持続的な未来の実現を
めざします。

日本酸素ホールディングス CEO
佐藤 雅太郎



WHO WE ARE?

日本酸素ホールディングスグループとは



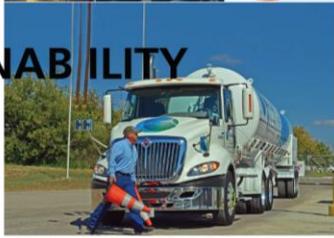
OUR BUSINESS

日本酸素ホールディングスは酸素濃縮を行う特許取得事業、
酸素濃縮装置の製造販売を行っています。
また、天然ガスや液化天然ガス等のガス事業、
LPGの生産販売、その他多岐にわたる事業も実施しています。
このほか、国内の電力供給会社、ガス供給会社などにて
長年取引を通じて業務提携がなされています。



OUR SUSTAINABILITY

日本酸素ホールディングスはSDGに
積極的に取り組む企業として活動しています。
事業活動を通じた気候変動対策やSDGへの貢献に加え、
企業価値向上に資する様々な社会貢献活動も実施しています。



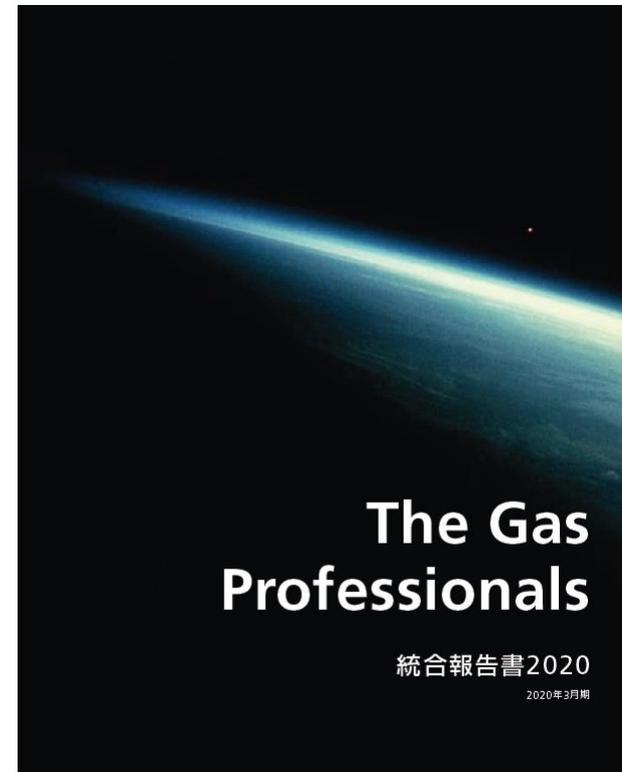
OUR MANAGEMENT

日本酸素ホールディングスは株主と利益を両立させることで、
成長、強靭性を向上させ、すべてのステークホルダーへ価値を提供し、
持続可能な成長を実現し、社会を元気にするための取り組みに
取り組んでいます。



● 統合報告書はホームページからご覧になれます。

<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/>



統合報告書2020

2020年3月期

 日本酸素ホールディングス



MATHESON
ask... The Gas Professionals™

注意事項

- 本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本説明会および本資料には、将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されております。これらは現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断・想定したものであり、実際の業績はさまざまなリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがございますが、これらに限りません）を含んでおります。
- このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございまして、ことをお含みおきいただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願い致します。



NIPPON SANSO HOLDINGS

日本酸素ホールディングス株式会社
財務・経理室 IR部

<お問い合わせ先>

以下のお問い合わせフォームにて、ご照会をお願いいたします。

<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/contact/ir.html>

お忙しい中、弊社企業IRセミナーをご視聴いただきまして、
誠にありがとうございます。